

## 04.『街のテクスチャ』

街でみかけた建物や看板や壁面といった、「あれはナニ?」と気になったものを取り上げていきます。



西区菊井の交差点から少し北西に鎮座するこの「金刀比羅神社」は、大國主命を祀る、1797年(寛政九年)創建の由緒ある神社。文政年間の悪疫流行の際、多くの人々が災いを免れたと伝えられ、病魔退散や家運隆盛の神として信仰されてきました。かつては旅の安全を願う参拝も盛んだったと伝わります。住宅街にぽつんと落ち着く空間を見つけたような気がしました。

## 05. しんみち・採集記

安田印刷工業の近くでみつけたグルメや商品などを紹介していきます。今回は町の中華屋さんです。



創業50年をうたう、ザ・町中華の「天津」さん。お店おすすめのメニューも豊富にある中、今回は写真の「スタミナ焼きそば」850円を注文しました。ニラともやしにやさしい辛さの台湾ミンチが絡んで、辛いものが苦手な方も安心して食べられる焼きそばでした。

天津【営業時間：11:00～14:00 / 17:00～21:00・日、祝日休業】  
名古屋市西区新道 1-21-1 (浅間町駅出口3から徒歩約5分)

## 06. Tomo's TALK 代表取締役社長 安田 智雄のコラム



最近、時間が早く過ぎると感じることはありませんか。子どもの頃は毎日が新しく、次は何が起こるんだろうというワクワク感に満ちていました。その積み重ねが時間を長く感じていたのかもしれませんが。先日、恵まれない環境にある子どもたちを体験企画で引率する機会がありました。お菓子の詰め合わせを渡したとき、三歳くらいの男の子が「わぁっ、大きい!」と声をあげ、とても嬉しそうな顔をしてくれました。大人にとっては小さな出来事でも、その子にとっては瞳を輝

かせるほどの喜びだったのでしょうか。その姿に、思わずこちらまで温かい気持ちになり、今も印象に残っています。考えてみると、大人になるにつれてこうした純粋なワクワクを感じる機会は少なくなります。だからこそ、これからの人生では、ただ時間が過ぎるのを待つのではなく、自分から新しいことに挑戦し、新しい出会いや経験を積み重ねていきたいと思えます。人生の残りの時間を長く感じるか短く感じるかは、どれだけ多くの「初めて」をつくれるかにかかっているのかも知れませ



ん。これから子どもの頃のような好奇心を忘れず、心が躍るような毎日を過ごしていきたいです。



お客様の思いを伝えることがYASUDAの使命です。

2026年9月末日 発行

発行者: 安田 智雄

発行所: 〒451-0043

名古屋市西区新道2丁目13番10号

安田印刷工業株式会社

TEL.052-533-0088

FAX.052-571-1200

SNS・HPは  
こちらから



SDGs宣言企業を  
応援いたします。

安田印刷工業がお手伝いいたします

各種印刷物からWeb、広告、販促物などお客様の思いを伝えることならお気軽にご相談ください。

【印刷物一例】名刺／DM／チラシ／ポスター／冊子／カタログ／リーフレット／POP UP／のぼり／懸垂幕／横断幕／パッケージ etc.

【経営理念】『球角球』お客さまの要望に応え 自らの成長を志し お客さまを創造し続ける

YASUDA  
PRINTING CO., LTD.

より良い印刷のためにできること

# SOUZOU

October 2026

Vol.

# 65

TAKE FREE

### 01. Print of Creative

文字と余白の「心地よさ」の正体

### 02. Movie's EYE

「オデュッセイア」

### 03. 今月の推し紙

### 04. 街のテクスチャ

### 05. しんみち・採集記

### 06. Tomo's TALK Overview



Yasuda Printing Co.,Ltd

# 01. Print of Creative

現場で聞きたいいろいろなお話

## 文字と余白の「心地よさ」の正体

フォントはそのままでは使えない！？

見る人が無意識に感じる、日本語の美しいリズムとバランスについて探ってみました。

広告などの紙面を開いた瞬間の「読みやすさ」は、どこから生まれるのか——。その正体は、緻密に計算された「文字間隔」と「余白のバランス」にありました。今回も、文字組み（組版）などを担当する制作スタッフにインタビューを実施。ベタ組みと手作業によるカーニングの違い、視線を迷わせない余白の作り方など、読者が無意識に感じる「美しいリズムと設計」の裏側を探っていきます。

広告や紙面を開いたときに、パッと見て「読みやすい」と感じるものには、どのような特徴があるのでしょうか？

一言で言えば「文字と余白のバランス」が整っていることなんだと思います。広告や冊子などを見る方はほとんど意識していないんですが、人は文章を読むとき、単に文字を追うだけでなく、紙面全体の「視線の引っかかり」や「余白のノイズ」を無意識に感じ取っていると思います。

読みやすい紙面というのは、視線が迷わずスムーズに流れるよう、裏側でしっかりと「心地よい空き」が設計されているんです。

「余白をつくる」というのは、単にスペースを空けるということではないですね。

はい。余白は「何も配置していない場所」ではなく、むしろ「次の情報を引き立たせるための要素」であり「情報を理解するための管束的な空間」でもあります。情報を詰め込みすぎると目が疲れてしまいますし、逆に余白の位置や大きさがバラバラだと視線が泳いでしまいますので「どこにどれだけの空きを作るか」によって、情報の優先順位や読むリズムが生まれるように意識して組んだりしています。

文字と文字の間を調整する「カーニング」について教えてください。

より良い印刷のためにできること

パソコンで文字をそのまま打つと、例えばカタカナの「イ」と「一（音引き）」の間のような文字の形によって、視覚的な間隔が不揃いに見えてしまいます。この「文字と文字の間の視覚的なスキマ」を、1文字ずつ手作業で詰めたり開けたりして均等に見せる作業がカーニングです。自動処理のベタ組みのままだと、どうしても文字と文字の間に不要な「パラパラ感」が出てしまうんですね。

スイート  
スイート

■文字組みは文字の形によってバランスが変わるのでその組み合わせに合わせて調整が必要になります。



■気になる箇所にカーソルを置いて、左右キーとOptionキーで少しずつ詰めていくので想像以上に時間はかかります。

1文字ずつ微調整されるんですね。手作業と自動処理では、それほど差が出るものですか？

まったく違います。前号でも「AIは全体のアイデア出しは得意ですが、繊細な文字調整は苦手」という話がありましたが、まだまだこういった作業は人の手による領域です。特に日本語はひらがな、カタカナ、漢字、アルファベット、数字が混ざり合う非常に複雑な言語表現です。角ばった漢字の隣に丸みのあるひらがなが来るときなど、文字同士の「抱き込み」の感覚は、人間の目と感覚でしか美しく揃えられません。

ミリ単位、あるいは数ポイント単位の細かな作業になってくるんですね。

そうですね。行間（行と行の開き）についても同じです。行間が狭すぎると次の行に移るときに目が迷いますし、広すぎると文章としてのつながりが切れてしまいます。本文のフォントサイズに対して適切な行送りを設定し、段落ごとの「息継ぎ」のスペースを作ることが、無意識の読みやすさに繋がります。わかりやすい例で言うと、2〜3行の短い文章などで縦組や横組だとその行幅やバランスで読みづらくなっているものをたまに見かけます。もう少し見やすく整えたら

良いのって思ったりもしますが、たぶん自分自身も過去にそういった失敗をいくつもやってきているのかも知れませんがね（笑）。

文字の種類（フォント）によっても、余白のとり方は変わってくるのでしょうか？

はい、変わります。例えば、線が細く上品な明朝体と、太く力強いゴシック体では、同じ文字サイズ・同じ行間でも読者が受ける「密度の印象」が大きく異なります。明朝体なら少しゆとりとした余白を持たせることで洗練された空気感が生まれやすし、ゴシック体なら適度な引き締めが必要です。書体のデザインに合わせてその間を変えていくのも、組版においては大切な役割になってきます。

目立たないけれど、非常に奥が深い工程ですね。このポジションにおけるやりがいを教えてください。

組版や文字組みの仕事は、見る人に「文字組」を意識されないことが成功だと思っています。紙面に違和感を感じることなく最後までスラスラと読めたとき、その紙面には完璧な「文字と余白の心地よさ」が組み上がっているんだと思います。見る人が無意識のうちにコンテンツに没頭できる「最適な紙面」を作り上げることがこの仕事のやりがいだと感じています。

# 02. movie's EYE

.....『オデュッセイア』

## 改めてギリシア神話を学びたくなる映画。

今回の映画は、私の好きな監督のひとり、クリストファー・ノーランの長編映画としては13作目。結論から言えば、本当に面白い映画でした。約3時間という長さを感じさせないほど、最後までスクリーンと音に引き込まれていました。ただし、この作品をより楽しむなら、「オデュッセイア」について事前に予習しておくことをお勧めします。ホメロスによる古代ギリシアの叙事詩であり、物語の背景には複雑な人間関係や神々との約束事が絡み合っているからです。私も多少は予習して臨んだものの、観終わった後に改めていろいろ調べることになりました。内容についてはメディアでも多く語られているので、ここでは触れませんが、

観ているうちにその前日譚にあたる「イーリアス」、いわゆるトロイ戦争末期の物語にも興味が湧き、2004年公開、ブラッド・ピット主演の『トロイ』を久しぶりに観返しました。そこで知ったのが、『トロイ』の監督候補として、実はクリストファー・ノーランの名前が挙がっていたということ。もしノーラン版『トロイ』が実現していたら……と思うと、それもぜひ観てみたかった。そんな想像まで楽しみながら、ギリシア神話の世界に浸った一日でした。



# 03. 今月の推し紙

今回は格子柄のエンボスが特徴的な、特種東海製紙株式会社様が製造するファンシーペーパー「TSギフト-7」をご紹介します。



規則正しく並んだ、ごく小さな格子状（チェック柄）の幾何学模様が紙の質感を高めてくれて、つつい手に取ってみたいくなる紙になります。光の当たる角度によって繊細な陰影が生まれ、シャープで洗練された印象を与え、名前の通りギフトラッピングはもちろん、名刺やペーパークラフトに最適な紙です。

Yasuda Printing Co.,Ltd